

とらいあんぐる太陽
(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503817		
法人名	有限会社ウェル・ビーイング		
事業所名	とらいあんぐる 太陽		
所在地	札幌市白石区菊水元町5条2丁目2番18号		
自己評価作成日	平成30年11月15日	評価結果市町村受理日	平成30年12月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=0170503817-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

全職員が基本理念・ケア理念を共有し、入居者様一人ひとりの意思や思いに寄り添った個別ケアの提供を心掛けています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年11月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市中心部近くの幹線道路に面した場所にあるグループホームである。高層マンションの1階部分が1ユニットのグループホームとなっている。周辺にはスーパーやレストランなどの商業施設、小学校、バス停などがあり、利便性に優れている。建物内の廊下や居間には行事の写真や季節の装飾があり家庭的で賑やかな雰囲気となっている。居間には畳の小上がりがあり、トイレが広く洗面所も車椅子対応となっている。職員は利用者のペースを尊重して優しく穏やかに親切に接しており、利用者も明るく会話しながら過ごしている。管理者を中心に家族とのコミュニケーションがよく取れている。地域との関係では、法人が運営する児童デイサービスの子供や菊水小学校の生徒、日本舞踊や楽器演奏のボランティアの来訪があり、利用者が楽しく交流している。また、運営推進会議や避難訓練にも町内会区長や民生委員の参加が得られている。ケアマネジメントの面では、3か月ごとに介護計画を更新し、モニタリング実施記録や担当者会議の記録が整い、見直しの経緯が詳しくわかりやすくなっている。防災面では、年3回の避難訓練の実施、防災マニュアル、備蓄品の準備、地域との協力体制の確立など、着実に対策が進められている。永く勤める職員が多く、利用者や家族の安心につながっているのも特長である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着 型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の基本理念やケア理念を廊下・和室の見やすい場所に掲示している。時に理念を唱和し共有して実践につなげている。	事業所独自の基本理念とケア理念があり、ケア理念の中で「安心した生活を地域と共にいつまでも提供します」と掲げ、地域密着型サービスの意義を踏まえている。理念を共用部分に複数掲示し、ユニット会議で唱和して共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事には積極的に参加している。同法人の児童デイサービスの子供達や近隣の小学生の来訪が毎年あり、交流を深めている。	地域の運動会や花植えに利用者と共に参加している。法人が運営する児童デイサービスの子供や菊水小学校の生徒が事業所を訪れ、利用者と交流している。日本舞踊や楽器演奏のボランティアの来訪も受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、認知症の人の理解や支援方法を地域の人々に向けて活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議と同日に避難訓練や焼肉会を実施し、町内会やご家族様の参加がある。そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議は2か月ごとに開催され、地域包括支援センター職員、町内会区長、民生委員、利用者家族の参加を得て、防災や感染症、認知症対応などをテーマに話し合っている。議事録を家族に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	各手続きは出来る限り区役所へ訪問し、協力関係を築くように取り組んでいる。また、生活保護の担当者には、定期訪問の際に情報の提供をしている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加があり情報提供を受けている。管理者は区や市の管理者会議に出席し、行政担当者と情報交換している。介護保険の手続きで管理者が直接区役所に出向いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に積極的に参加し、参加した職員からの報告で内容を共有している。身体拘束禁止行為11項目について掲示し、年2回内部研修を行っている。	身体拘束の禁止の対象となる具体的な行為を記したマニュアルが整備され、年2回の内部研修を行っている。やむを得ず身体拘束を行う場合は家族から同意書を得、さらに毎月会議で必要性の有無を確認している。玄関を施錠しているが、利用者でも中から簡単に開けることができる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に積極的に参加している。日々のケアについても虐待が見過ごされる事が無い様に注意を払い、防止に努めている。また、年1回内部研修を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、ユニット会議で研修内容を報告して職員同士で情報を共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者及び、計画作成担当者といった一定の立場の職員2名以上の立ち合いで十分な説明を行い、理解と納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に相談受付ボックスを設置している。また、意見・要望があれば管理者及び計画作成担当者が相談の場をもうけている。	家族は平均して月1～2回来訪している。来訪時に意見を聞き、連絡ノートで共有している。ノートは利用者名と内容を記し、わかりやすいようにしている。毎月、家族あてに通信を作成し、その中で個々の利用者の様子も伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議等で職員の意見を聞く機会を設け、その意見を反映させている。	月1回のユニット会議およびカンファレンスを行い、活発に意見交換している。管理者は年に1回、職員との個別面談を実施している。職員は、行事や広報、防災、消耗品管理などの役割を分担し、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	相談の希望があれば、相談の場を設けたり個人面談を行ったりし、日ごろの仕事のアドバイス・職場環境条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に数回、内部研修を行ったり、外部研修を受ける機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加する事で同業者と交流する機会を作り、そこで得た知識を職場に還元することでサービスの向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常日頃から様々な思いをしっかりと傾聴し、日ごろから職員同士の情報の共有に努め、入居者様との信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者・計画作成担当者もしくは職員がご家族様のお話を伺い信頼して頂ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望を聞き取り、入居前のサービス利用状況など総合的に見極め、カンファレンスを行い支援を開始している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事を一緒に食べたり、茶わん拭きや新聞たたみ、洗濯物たたみ等の活動と一緒にいう事で、暮らしを共にする同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の状況をご家族様に報告し、ご家族様からの要望も伺いながら、情報を共有して入居者様を支えていく様、努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の面会もあり、馴染みの人々との関係が途切れない様に支援している。	友人や知人の来訪は少なくなり、現在は1名の利用者に知人が来訪している。家族と一緒に食事や買い物、法事などに出かける方がいる。年間行事の中で、豊平公園や円山動物園など、昔の馴染みの場所を行き先を選んでいく。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や認知症の進行具合等を把握し、入居者様同士が良い関係を築ける様に支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後にご家族様や転出先の職員などから問い合わせがあれば、可能な限り対応し、支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に意向を聞き取り、その希望に近づけるよう努めている。その後も、ケアカンファレンスなどで入居者様の意に沿えるよう検討している。	半分ほどの利用者は言葉で思いや意向を表すことができ、難しい方も問いかけの反応から把握している。入居者情報、生活動作シート、課題分析シートで最新の利用者情報を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様、ご家族様からの聞き取り、センター方式の利用。また、入居前に利用されていた事業所等からも情報の提供を受けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	会話や観察を通じ、入居者様の状態を把握している。特変に関しては、介護記録・口頭での申し送り職員間で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度はユニット会議で、3ヶ月に1度はモニタリングを基に、ケアカンファレンスでケアについて話し合っている。入居者様・ご家族様の意向も聞き取り、ケアプランを作成している。	3か月ごとに介護計画を見直している。更新時のモニタリング実施記録や担当者会議の記録が詳しく整備されている。日々の記録のほか、計画目標に沿った利用者ごとのケアプラン実施表を作成している。	ケアプラン実施時の利用者の変化や職員の気づき、工夫などをケアプラン実施表の評価欄に記すことで、今以上に実施表を活用できるよう、記載方法の話し合いを行うことを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録、ケアプラン実施のチェック表も作成し、実践へとつなげている。また、都度職員からの気づきも聞き取りを行い、活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各ご家庭や、入居者様一人ひとりの状況に応じた支援を心がけ、個別に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や町内会活動を通じ、地域とのつながりを持ち、防災訓練などで近隣の方にご協力いただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に1度のかかりつけ医の往診・訪問看護を実施。また、専門医の受診希望や必要があれば、すみやかに受診出来るように支援している。	協力医療機関による週1回の往診があり、全員が受診している。その他の通院は原則家族対応だが、難しい場合は事業所でも通院を支援している。受診内容を病院受診記録に記載し、職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度、訪問看護師の来訪あり。入居者様の現状を伝え、お互い情報の共有をした上で、ケアにあたっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	可能な限り、担当医からの病状説明の場には同席し、病棟看護師や相談員とも連携をとって早期退院に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時には、ご家族様に現状の説明をしっかりと行い、希望に沿った支援が行えるよう協議をすすめる。また、担当医や訪問看護師とも情報交換を密に行っている。	利用開始時に「重度化した場合の対応指針」を説明して同意書に署名捺印を得ている。実際に重度化した場合は医療機関に移る場合が多く、過去に看取りの例はまだない。一部の職員は看取りの外部研修を受講している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修への参加でスキルアップを図っている。緊急時の対応も目の付く場所に掲示している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害を想定した避難訓練を全職員が参加出来るように定期的実施している。近隣住民の皆さんにも参加して頂いている。	年3回の夜間を想定した避難訓練を消防や地域の協力のもと行っている。職員の救急救命訓練を定期的に行い、災害時に必要な備蓄品も用意している。地震や水害を含む防災マニュアルを作成し、内部研修を行っている。	

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりに対し、敬意を持ちケアを行っている。個人の尊厳を尊重し、職員間でも意識の向上を図っている。	認知症ケアについて学びを深め、利用者の気持ちやペースに合わせて丁寧に対応している。個人情報や記録類などの個人情報は適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様やご家族様に意向を聞き取り、自己決定できるよう、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の生活のあり方を大切にして、希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の衣類は入居者様の好みを伺い、季節や行事に合ったものを用意している。整容の際は、入居者様の意に沿い、ご自分で出来ないところは、お手伝いさせて頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嚥下状態・歯の有無等、一人ひとりに合わせた食形態や食器具を使用している。また、行事に合ったメニューや外食等も行っている。食器拭きや、テーブル拭き等のお手伝いもして頂いている。	民間会社から宅配される調理済みの副食を温め品数を多くして提供している。主食は事業所で炊き、赤飯などを作ることもある。誕生日には別メニューでお祝いし、外食でバイキングを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外部の献立なので、栄養バランスには配慮出来ている。飲水は個々に合わせて促したりし、水分提供を行い、記録にも残すことで過不足の無いようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のケアを基本としている。個々に合った道具を使用し、職員の方で介助させて頂くことで清潔を保ち、口腔内の状態把握にも努めている。義歯洗浄剤の使用・定期的に歯科受診の実施をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄状況に合う誘導・ケアを行っている。自立されている方でも、見守りや声掛け等の適した支援を全員に行っている。	全員の排泄状態を介護記録に記載し、昼夜間とも、ほぼトイレでの排泄を支援している。介助が必要な場合は羞恥心に配慮してトイレに誘導し、約半数の利用者は自力で出来ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の申し送りで各自の排便状況を職員で共有している。下剤の調整・腹部マッサージを行う等の便秘予防に努めている。また、訪問看護師とも連携をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	湯船にゆっくりと入っている時も、談笑等を楽しんで頂いている。同性介護や入浴剤の使用等の工夫も行っている。	毎日入浴が可能で、午後の時間帯に週2～3回の入浴を支援している。脱衣所を温かくし、湯加減の希望や曜日をずらすなど意向に沿って対応している。入浴中は職員と会話を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や、体力を考慮し、午睡を取り入れている。気持ち良く寝て頂くために寝具等は綺麗にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋等は個人ファイルに保管し、常に確認する事が出来る。変更等があれば、都度連絡ノートで情報共有をする。与薬も個々に適した方法で行い、誤薬の無いようにしっかりと日付・名前を読み上げている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、たたみ・収納等、ご自身で行って頂いている。レクでは様々なゲーム・カラオケ等を取り入れ、楽しんで頂ける様に工夫をしている。また、季節にあった飾り付けもしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい時期等、敷地内のベンチに座り、外気浴をしたり、近くの公園に行き、桜を見たりして散歩もしている。また、レクでは動物園や花見・カラオケ等、外出の機会も作っている。	車椅子の利用者も近くの公園と一緒に散歩している。暖かい時期には毎月外出行事を企画し、豊平公園で季節の花の観賞や焼肉レストランで外食などを行っている。冬期に一部の利用者は家族と外出しているが、全体的に外気に触れる機会を増やす事を検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、入居されている9名の入居者様のほとんどは、紛失したり、他者とのトラブルが起こる可能性が高いので、現状は家族管理である。職員が関わり、所持できる方はこの限りではない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話・手紙の取次を行っている。母の日等で何か物が届いた際は、電話をされ、お話しされている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール・居室では日が差すので、都度カーテンで調整を行っている。また、季節によって温度・湿度の調整を行っている。日常場面や行事の写真の掲示する等、快適に過ごして頂けるよう工夫している。	居間とスタッフルームは一体的な配置で、台所は対面式の造りから家庭的で温かな雰囲気となっている。居間から離れた場所にトイレがありプライバシーも守られている。壁には児童デイサービスの子供たちの作品や行事の写真の掲示し、クリスマスの装飾で季節感を採り入れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホール、和室等に椅子を設置している。入居者様同士で談笑されている事もある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居する際は、馴染みの物や好みの物を持ち込まれる様にアドバイスをしている。一人ひとりに担当職員がおり、衣替えや個人の好みに合わせた整備を行っている。	居室には吊り戸棚、洋服掛けポール、ベッドが備えられている。室内に馴染みの家具類や小物類などが持ち込まれており、壁には家族の写真、暦などを飾り、その人らしい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には名札を、共有スペース等には場所の表示をしている。入居者様の動きを把握し、都度対応できるようにしている。		

(別紙4-2)

目標達成計画

事業所名 とらいあんぐる太陽

作成日：平成 30年 12月 19日

市町村受理日：平成 30年 12月 21日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	26	3ヶ月ごとに介護計画を見直して、更新時のモニタリング実施記録や担当者会議の記録を詳しく整備している。日々の記録のほか、計画目標に沿った利用者ごとのケアプラン実施表を作成しているが、評価欄をもっと活用し、利用者の変化や職員の気づき等を記載していく。	ケアプラン実施表の評価欄へ入居者様の変化や職員の気づき等記入し、介護計画の見直し時に活用する。	今以上に実施表を活用出来るよう、申し送りやユニット会議の時間を利用して、具体的な記載方法について職員間で話し合い、その後評価欄に詳しい内容を記入する。	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。